

# 米欧回覧

第18号  
編集・発行  
米欧回覧の会  
事務局

## 第十六回例会・新年懇親パーティー

### 独国公使を迎えて、大盛会！

第十六回例会は、「日独交流」をテーマに、一月二十二日（土）午後六時から、東京銀座のビヤホール「ライオン」の六階を借り切って行われ、八十一名が参加して大盛況となった。ドイツ国からはシュテッカー公使が出席して挨拶された。

#### 公使のスピーチ

孤立した島国から近代的産業国家への日本の変貌―世界政治と経済におけるトップブレイヤーへの変貌は、世界史の中でも先例のない最も目覚ましい歴史的な成果の一つで



### 大使、副使、の勢揃い？

当日は使節団首脳のご子孫も出席されたので、壇上で紹介があった。  
そして大久保副使の直系曾孫にあたる大久保利泰氏が代表して挨拶され、続いて伊藤副使の孫にあたる伊藤満州雄氏から、そして最後に岩倉大使の子孫である若き麗人、岩倉正枝さんから127年前のドイツ側の厚遇に対して感謝の言葉が述べられた。



左から岩倉正枝さん、大久保利泰さん、大久保利宏さん、伊藤満州雄さん、永富邦雄さん。

岩倉使節団がサンフランシスコのホテルに第一歩を印したとき、まず驚いたものに電鈴があります。「奴婢ヲ呼ニ電線アリ、指頭わずかニ触レハ、鈴声百歩ノ外ニ鳴ル」、指の先でちょっと触れればメイドが百歩の外からとんでくるといふ訳です。

### インターネット部会に期待する

泉 三郎

見ること隣村を見る如くであり、日本人は外国をみることに星の世界を見るようだと書いています。  
いま、インターネットに象徴される通信技術の大革新をみていると、久米の当時の驚きが何層倍にもなっただけでなく感じます。  
いまパソコンのキーにちよつと触れれば、一世界の事は掌にみるが如し」となってきたのですから。  
米欧回覧の会でも、その技術革新の波にのるべく、インターネット部会のみなさんの大変な尽力で三月中旬には「ホームページ」が立ち上ります。これは会員はむろん外部とのコミュニケーションに画期的な手段を提供することになり、時間と空間の制約を超えていつでもどこからでもコミュニケーションが可能になり、若い世代へのアクセスとしても大きな力を発揮することになると思います。新メディア「ホームページ」の開設が、米欧回覧の会にどのような刺激を与え、新たな展開をもたらすか、大いに期待されるところであります。

### 新年懇親パーティー(つづき)

会場はまるでミュヘンのピヤホールそのまままで開会前からビールが提供されなごやかな雰囲気の中で始まった。司会はおなじみの浅沼晴男氏、泉三郎氏の「実記」の朗読をまじえての挨拶のあと、ドイツ公使の英語によるスピーチがあり、さらには山田哲司氏のドイツ語を交えての乾杯の挨拶があった。



### 映像「岩倉使節の世界一周旅行」

#### マラソン上映会・日本プレスセンター

五回目を迎えた年一回の「岩倉使節団の世界一周旅行」マラソン上映会は、旧冬十二月十一日(土)、十時半から日本プレスセンターホールで開催され、百二十の席は午後には満杯となり補助席がでるほどの盛況となった。



映像は毎年、修正が加えられているが、今回は「実記」からの引用部分が別にスライドで映し出され、音読だけではわからなかった久米邦武の格調高い名文の一端を味わうことができた。

そのあと歓談にはいり、金谷研氏のバリトン、鈴木誠氏のチェロ、同夫人のヴァイオリンなどによる演奏が入り雰囲気盛り上げた。また、ホール付の楽士もドイツ民謡や日本の歌も奏で、日独交流の輪はにぎやかにひろがった。そして、参会者相互の交流・懇親もさかんに行われて、新年にふさわしいパーティーとなった。八時半散会。

また、米国篇上映後に二名の方から、英仏篇上映後二名の方から、全篇終了後三名の方から次頁のようなコメントがあった。



映像担当の足立さん、岩崎さん。(左から)



#### 啜飲一頓、以テ快ヲトル

泉三郎氏は冒頭の挨拶の中で、「米欧回覧実記」のベルリンの部分引用、「都人男女ノ来遊スルモノ、庭上ニ羅座シ、一小案ヲ対シテ、麦酒ヲ酌ミ、啜飲一頓、以テ快ヲトル」を紹介すれば、会場から「啜飲一頓とは一トン飲むという意味か」という質問がとびだし爆笑を誘った。かくてこの夜は異国からの七人のお客様を交えて、まさしく「啜飲一頓、歓談縦横、以テ快をとる」の夕べとなった。

#### 会員楽士大熱演



バリトンの金谷氏(会員)と友情出演のソプラノの名古屋佳子さん。曲目はモーツァルト「魔笛」から「愛を知る男には」、シュトラウス「こもり」から「侯爵様あなたのようなお方は」など。



チェロの鈴木氏(会員)とヴァイオリンの鈴木夫人。曲目はメンデルスゾーン「春の歌」、ブラームス「ハンガリア舞曲」など。

### マラソン上映会のコメント抄録

当日の参会者の声をコメントとアンケートの中から抄録してお伝えします。



金木亮憲さん  
(イムカ)

アメリカ編まで拝見しての感想を三つ申し上げます。  
一つは当時の日本人は精神的なバックボーンがしっかりしていたんだなということ。  
二つはアメリカという国の大きさ、懐の深さ、それをあらためて感じたこと。  
三つはインディアンのこと、昨年コロラドで見聞して思ったのですが、文明の進むに従っていいよ片隅に追いやられなにか大変可哀相な感じがしたことです。



手納美枝さん  
(デルタポイン  
ト・インタ  
ーナショナル)

私も若い頃にアメリカに留学いたしました、船と汽車で旅をしていきまし  
たから、その思い出と重ねて大変興味  
深く拝見しました。

岩倉ミッシヨンもそれを学んだと思  
いますが、私たちもアメリカのよさ、  
たとえば何でも自力でやる精神、公明



永富邦雄さん  
(元第一生命)

正大な態度、誰でもあたたかく迎える  
スピリットなど、今でも日本に欠けて  
いるものをあらためて学ぶ必要がある  
ように思います。

岩倉使節団はよくあの時期にこれだ  
けの大デリゲイションを組んで、世界  
を旅してよく異文化を見てきたと思  
うんです。

そして同時に、民主主義、自由主義、  
博愛主義といっても、それはタマエ  
で現実にはなかなかそうはいかないこと、  
特に外交などは各国とも大変したたか  
なところがあることも学んできた。だ  
からこそ日本は植民地にもならず、済  
んだと思うんです。

私は実は「米欧回覧の会」に入つて  
初めて歴史に目覚めたともいえるん  
ですが、歴史は面白いし、大切なこと  
ですから大いに学ばなければいけない。  
学んでいけば自国の長所と短所とみえ  
てくる。等身大の日本がわかってくる。  
そして自分の国の文化を大事にし、自  
国のアイデンティティを失わないよう  
にしなければいけないと思います。



大久保利宏さ  
ん(元三菱銀行  
クレディイオ  
ネ)

かねてから「この映像は『米欧の会』  
の原点であり、素晴らしいから是非見ろ」  
といわれていたのですが、正直いって  
大したことはないだろうと思ってい  
たんです。

ところが、こうして見てみると、な  
かなかレベルが高く、非常に感銘を  
うけました。例えばパリのことでも、私  
は仕事の関係で十七年間パリを往復し  
ましたが、知らないことがいくつも  
でてくる。図書館なんかにもないよう  
な写真や資料を集めておられて、これ  
は大変な労作だと思いました。

私も、生きた昭和史を研究してきた  
つもりであり、まだ、『花の六十代』  
ですので、これからもみなさんと一緒  
に歴史を勉強していきたいと思いま  
す。



菅間昭さん(フ  
ォーリンブレ  
スセンター、  
元NHK)

鮮烈な印象を受けました。いつもな  
らウトウトするんですがそれもしな  
いで見られました。

岩倉使節団のことは少しは知ってい  
ましたが、これほど大変なこととは思  
わなかった。本当に来て良かったなあ  
と思、眼から鱗が落ちる感じがしま  
した。

#### 当日のアンケートより

●歴史に興味がなくても大変面白いし、  
そこから知りたいことが生まれるよ  
うに思います。写真がとても素晴  
しく楽しませていただきました。プロ  
の手で作る直すのもいいかも知れま  
せんが、私は今しばらくこのまま見  
たいと思います。

●私自身、この使節団は日本より逃避  
したのだと思っていました。でも、  
実際は大きな収穫を得てきたことが  
このスライドと説明で理解できました。  
泉さんの解説はとても説得力があり、  
一日中興奮した状態がなかなかおさ  
まりませんでした。

●現代の日本人はバックス・アメリカ  
ーナの世界を当然の前提として、世  
界の政治。経済を考えがちですが、  
そうでない元々の世界を知るのにこ  
の映像はとても良いと思います。

●日本の歴史、アメリカ史、ヨーロッ  
パ史が、縦に頭の中に入っておりま  
したが、これらが今回、横につなが  
り世界史の流れとしてインプットさ  
れました。そして使節団の偉大さを  
あらためて思い知りました。彼らが  
目先のことにとらわれず、根本的に  
日本をどうもつていくか、真剣に考  
えていたことがわかります。

●今回、初めて参加させていただきました



猪狩章さん(朝日ニューズター・キャスター、元朝日新聞)

とにかく632日の旅を一日で見てもおもうというのですから、えらいことです。でも考えながら、未来のことも思いながら見ていくには、スライドの制止画像がよかったし、泉さんの大変適切な解説もいい。

新聞記者はよく、「面白い」という言葉をつかいますが、それは「興味深い、参考になる、勉強になる、是非他の人にも伝えたい」という意味です。その意味で今日の映像は「まさに面白い」。それで私は「この面白いもの」を政治家に見てもらいたいと思う。「政治家は将来のことを考える、政治屋は次の選挙のことばかり考えている」といいますが、この大事な時期に選挙の事ばかり考えているようじゃどうしようもない。是非、今の政治家に明治人の気概を学んで欲しいと思います。



近藤道生さん(博報堂代表)

私は大学時代に読んだ本で強烈に思い出したことが一つあります。それは明治初期の日本人がアメリカ人から非常に感心され大変賞賛されたというこ

とです。そこには「にじみでる気遣、品格」といったものがあつたというのです。「どんな教育を受けてきたのか」と聞かれるんですが、本人はうまく説明できない。大部分の人は寺子屋とか剣術指南とかで教育を受けたのでしょうが、とにかくわれわれには武士道があつたという話です。

もう一つはインディアンのことです。米国で先住民民族であるのに隅この方に追いやられていっているのは同情をそそる。帰路のアジアでも、スマトラ、シンガポール、香港、そこに諸国家の矛盾を感じた。なんで有色人種だけが虐げられるのか、その白人優位の世界を覆したのは日本民族だけだつた。日本人は時には暴走したり、間違つたこともやつたけれど、いま有色人種が国連に平等のように並んでいるのは、日本民族が大変な犠牲を払つてやつてきた成果ではないか、岩倉使節団以来の日本人が努力してきた一つの成果ではなからうか、そう思います。



小島慶三さん(近代化研究所長、前参議院議員)

今日は五時間を通じて使節団のあらましが大変素晴らしく語られて、「米欧回覧実記」の著者である久米の目を透して見た世界の文明がとてよよくわかりました。

これは十八世紀のフランス革命から二十世紀のロシア革命に到る、ちょうどその中間の地点での世界史であり世界地理である。それを書いた久米という人物の立派さは実に大したものだと思ふ。

そしてまたその書を現代に甦らせる仕事も立派なもので、我々は泉さんに感謝しなくてはならないと思う。

とにかくこの旅行でミッションが得た体験が元になって日本の近代史の最初のページが開かれ、方向付けがされたことに間違いはない。ですからこのミッションの努力、久米さんの努力に私は感激するのです。

ところがそれからの日本はどうか、とりわけ今の日本はどうか。戦争に負けてから日本人は、岩倉ミッションの持っていたような志をなくしてしまった、恥を忘れてしまった、現在の腐敗堕落した政官財の癒着はほんとうに嘆かわしい、この情けない状況からなんとかしてもテイクオフしなくてはならない。

それは日本のことだけでなく世界のことも考え、個人のことだけでなく国のことも考え、政治家だけじゃない、日本人一人一人が考えなくてはいけない。そして、これから世界に対して日本をどうするか、その行く末をじっくり考えるべきです。その意味で、今日のような会合、映像、解説をもっと拡げていく必要がある。また英語版も出来るようですから、外国人にも日本の当時のあり方を知ってもらいたいと痛感します。

したが、非常に素晴らしい会であることを実感した。米欧の歴史にこれまであまり関心しなかった私が、今日一日で完全に魅せられてしまった。もっと知りたい、学びたいという思いを強く抱いた。

全編を見終わって、ものすごい体験をさせていただいた気になりました。使節団の受けた感動が直接伝わって来るようでした。また、現在の映像が入るのも新鮮で、歴史ある地においては、いかに当時の建造物が残っているかが分つて、楽しく感動しました。私も旅行に行きたくなりました。

ナレーションも非常にわかりやすく、使節団の人柄も感じられるエピソードも多く含まれていたため、学校では学べない内容もあり楽しめました。

ナレーションにもう少しメリハリをきかせて下さるといい。

使節団の内面の問題があまり描かれていない。後半になるとテーマのつながりが悪くなる、少し整理した方がよいのでは？

NHK第3の教育番組で、十回(一回三十分)で放映できたらと思います。今や、これは国民的課題だと存じます。志、恥、国を想うことの大切さを痛感した。

特別寄稿

映像「岩倉使節の

世界一周旅行」を見て

網倉 章一郎

1 実事求是

インターネットの時代には、あらゆる情報が瞬時に入手可能で、わざわざ外国に出かけなくても、かなりのことは理解することが可能である。しかし、いくら情報が進んでも、現地探索で感じる情報」は、デジタル化して伝送する事は不可能である。Seeing is believing は依然として真理であり、情報化が進めば進ほど、ヒューマンタッチのあるフェイス・トゥ・フェイスの交流が必要であるということ、

「米欧回覧」は現代人に対して先ず伝えていけるものと思われる。また、この「米欧回覧」は、米国の条約改正交渉失敗、ハイランドでの岩倉大使の静養など、いくつかの予期せぬ出来事のお陰で、その内容に一層の広がりや深み加わっている。200日間の滞在がなかったらアメリカの記述はもっと単調なものになったに違いない。現代はスピードと効率を重んずる世界、しかし、それだからこそ「ムダの効用」というか、余裕をもつことの大事さを「米欧回覧」は教えてくれるのではないか。

2 先進技術

使節は外国との文化の違いを探求す

ることも、もちろんその目的であったが、やはり当時の欧米の技術―蒸気機関、鉄道、通信など―が如何に世の中に変化をもたらしているか、自然科学、技術において米欧が如何に先行しているか、を伝えることに重きを置いていると思われる。情報化の今日、程度の差こそあるにせよ、情報技術、情報関連産業において、「米欧回覧」が叙述したような欧米、特に米欧との格差をわれわれは感じないだろうか。

3 美しい国

使節は長崎近海に帰ってきたとき、日本の海や山や島は「秀麗」で「世界屈指の景勝地」と記している。今日でも外国人が日本に来ると日本は美しい国だといってくる。しかし、われわれは自分たちの住んでいる町を見て、その実感をもつことができるだろうか。今回見せていただいた外国の風景は、アメリカもヨーロッパも、日本の様に小さな国である英国やオランダも、伝統を生かした美しい町並みや緑広がる田園をもっている。日本で汽車に乗って車窓から写真をとれば、看板の氾濫する野山の景色が展開される。上野公園を歩いてハイドパークを散歩する清々しさを、楽しむことができるだろうか。京都駅で新幹線を降りて町に出れば、古都「京都」に來たと実感できるだろうか。お寺の境内は京都だが、一歩外に出れば京都の町並みは失われている現実を、われわれはどう評価すべきであろうか。

4 外国交際

使節は米欧で条約改正交渉に失敗し、「交際と交渉は別」ということを痛感しているが、この認識は今も生きている。日本にしてみれば、日米関係ほど緊密な関係はないはずだが、日米摩擦は依然続いている。日本でも商売に「義理人情は禁物」といわれるように、利害に関する人間の行為の根底には冷厳なエゴが存在している。国の利害に関することは、人間関係だけでは解決できない。使節の経験はこのことをわれわれに想起させる。しかし、同時に「米欧回覧」は、交際によって築かれた信頼関係は、事態が複雑化したとき、それを克服する助けになることも伝えていられると思われる。

5 先送り

大分以前から「米欧回覧実記」五冊は本棚にはいつている。時々必要などころだけを見ることはあるが通読したことはない。プレゼンテーションの冒頭挨拶で、使節団の一人になったつもりで見るとのお話があったが、今と昔をうまく組み合わせ、音楽の効果も加えながら、泉氏の滑らかなナレーションで次々と展開される情景に、やや興奮を覚えながら惹きつけられたお陰で「米欧回覧」の全体像をつかむことができ、「米欧回覧実記」を通読する楽しみは、当分先送りしてもよいという確信を得ることができた。

(東芸国際交流財団専務理事)

● スライドという表現形式がきわめてテンポのよい物語になっている。ナレーションも簡潔、明瞭で歯切れが良く聴きやすかった。明治人の気品と知性のある顔立ちに感銘を受ける。使節団の歩いた土地や風景がよくわかる。

● この映像は何回見ても常に新しいことに気づく。

● とても素晴らしい内容で感動いたしました。今まさに日本人として自国に誇りをもっていく必要性の大きい時代に、若者たちに広く見せたいと思う。



当日の会場風景 (右端が網倉氏)



# 2001年プロジェクト 幹事会議報告

## 〈幹事会報告〉

### 一 新任幹事の件

会の活動の充実に伴い、このたび左の四氏に新しく幹事を委嘱することになり、その紹介があった。

藤原宣夫、柳沢賢一郎、楠木孝雄、中山進

### 二 会の英文名の件

対外的に英文名が必要になってきたので、種々検討の結果、IWAKURA MISSION SOCIETYとするようになった。

### 三 インターネット「ホームページ」開設に関する件

会のホームページ開設に関する諸費用の件、初期投資：約30万円、維持費用：月間2万円についての承認、並びにドメイン名をIWAKURA MISSIONとすること（申請すること）の承認。

### 四 2001プロジェクトの件

泉三郎提案並びに石川直義提案（左記の通り）の了解。

## 〈泉三郎氏の提案〉

会の歴史を回顧してみれば、既に四年の歳月を経ており、その間の実績を振り返りますと、たとえば1号から17号に及ぶニュースの誌面からみても、今回で五回目を迎えた「マラソン上映会」の反響からしても、現未来部会の分厚いメモランダムや歴史部会の内容を想起してみても、相当量のパワーの蓄積がなされてきたと思えます。

しかもその間わが日本国の指導層はさらにダッチロールを続け、状況はいよいよ悪化しつつあります。温度差はあれ「世直し」的な志をもって集まったわが集団としては、この

際より真剣に当面する日本の諸問題に取り組み、なんらかの突破口を見出すべく我々なりの努力をすべきだと思います。これまでサロンの行ってきた会合は自由で柔軟で今後も大切にしていきたいと思いますが、さらに一歩を進めて何らかの形で対外的にも啓蒙、発信をしていく必要があると考えます。

よって五周年記念事業の「2001プロジェクト」は、左記のように行っていくかどうかというのが私の提案です。

## 基本テーマ

「世界の中の日本、二十一世紀の針路を探る」現在の日本は大変革期を迎えて混乱の中にあります。幕末、戦後に次ぐ第三の開国、第三の維新が必要だとされています。

そこで私たちは、日本近代化百三十年の原点ともいえるべき「岩倉使節団」と「米欧回覧実記」の研究集団として、先人の歴史から学びそのリアリズムの精神をもって世界と日本の現状をよく把握し、これからの日本の往くべき道を真剣に模索し、「平成使節団」の気概をもってアマチュアなりの市民レベルの研究啓蒙、発言をできればと思っています。

## 四つのプロジェクト

一「米欧回覧実記」の現代語要約版並びに同英訳本の出版

a これまでの実記研究を踏まえ、より広く日本人、とくに若者を対象に、読みやすい、わかりやすいものを編集出版する。

b 要約版の英訳版をつくって欧米諸国はむろん途上国の指導者層にも読んでもらう。（実記グループ：担当チーフ 泉）

二「日本の近代百三十年の光と影」の出版

岩倉使節の見聞がどう日本の近代化に生かされたか、また生かされなかったか、その視

点をベースにしながら日本の近代史を通観し、これまでの研究会の成果を踏まえ、さらに今後一年計画で問題点を整理討議して、「日本近代史物語」といべきものを編集・出版する。（歴史グループ：担当チーフ 半沢）

三「世界の中の日本、二十一世紀の針路を探る」の出版

現代日本が直面する諸問題について真剣な討議を重ね、それを基に新世紀を迎える地球文明時代の日本のあり方についてこれまで行われてきた論議の報告を基に問題点を整理し、今後一年をかけて論議を重ね最後に具体的ビジョンとして発表する。

## 四 記念フォーラムの開催

以上の成果を発表する場として、2001年の秋頃、フォーラムを開催する。コアの部分は上記三部会が担当し、映像、国際交流、懇親パーティ、種々のエンターテイメントなどは他のグループが協力して盛り上げる。（プロジェクトチーム：担当チーフ 石川）

## 〈石川直義氏の提案〉

記念事業費及び募金  
事業費概算：2000万円として、その資金を各財団、基金などに仰ぐ。

1「米欧回覧実記」  
要約版編集出版……………400万円  
同英訳本の出版……………400万円

2「日本近代史物語」の編集出版400万円  
3「二十一世紀の日本の針路」の編集出版……………400万円

4フォーラムの開催……………400万円

尚、当面の活動資金として当会で200万円を目標に特別賛助金を集める。

## 歴史グループ

連絡 半澤健市 TEL&FAX.03-3717-5576(自宅)  
なるべくファックスで  
電子メール kenhanza@ba2.so-net.ne.jp

岩倉使節団が求めた「あるべき近代国家」は・・・日本が130年でどのように「現実の近代国家」として実現したのか。歴史部会は、これを検証する試みに挑戦しています。2月10日(第11回)は夏目漱石の講演記録を読んで、文学者の見た明治を議論しました。本年度は、来年の「2001年プロジェクト」に向けての新しい企画を考え、会合を量質ともに高めたいと思っています。

様々なキャリア、みかた、考え方もった会員による発表や討議から新しい視点をさぐるのが当会の特色です。他の部会の方の飛び入りも歓迎します。

## 歴史とグループ

連絡 懶クラウンインターチェンジプログラムス  
TEL.03-5469-2090代 FAX.03-5469-2093

1997年6月に始まり夏期をのぞき月1回開催、本年3月で、30回を迎えます。「米欧回覧実記」(岩波文庫5冊)を毎回音読し、意見を交わし、或いは、ノンフィクション作家の水沢周氏、泉三郎氏、常連の博識の方々のコメントをいただくという形で1巻から100巻まで読みすすみ(飛ばした所も多かったが)本年2月3日無事(??)終わりました。最後の音読は泉氏がつとめ「横浜ニ着船ス」で終わった時には期せずして拍手がわきました。

来期は、国別、テーマ別により深く再度読む、または、福沢諭吉の「文明論之概略」、梅棹忠夫の「文明の生態史観」を合わせて読む等の案が出ています。方針は3月9日(木)の部会でみなさんの意見を集約して決定します。

## 映像グループ

連絡 岩崎洋三 TEL&FAX03-3488-0532

当グループの最大の行事「マラソン上映会」が別記の通り盛会裏に終了した。とにかく当会が誇る全10巻正味5時間の超大作スライドを一挙に見ていただくというのだから、やる方も見る方も大変。しかし、年1回恒例となったこの映写会に今回も大勢の「鉄人」が集まって下さり、上映後のコメント・タイムやその後の二次会も含めて、熱っぽく「岩倉」を語る場になったのは幸いでした。

当グループでは1時間半の短縮版、2時間の英語版も含めて上映機会があれば積極的に対応したいと思っています。ご相談下さい。

## 国際交流グループ

連絡 浅沼晴男  
TEL.080-596-1589 FAX.0462-75-5634

昨年から今年にかけて独逸国では「ドイツにおける日本年」のいろいろの催事が行われており、八月にはベルリンの新名所となったソニー・センターで「岩倉使節展」が開かれる予定です。付いては、この際、有志を募り是非ベルリンを訪れようという話が盛り上がっています。いいアイデアがあったらお知らせ下さい。

## 理未来グループ

連絡 郡山史郎  
TEL.03-3492-8553 FAX.03-3492-8144

- ①4月から始まる新年度は、2001年プロジェクトの一環として、今までいろいろ議論してきたことの中から「世界の中の日本、21世紀の針路」というような題で一つの本にまとめます。出版社から市販品として出せるレベルのものにすることを目標とします。
- ②上記のために残されたテーマの議論、及びまとめを行う目的で何回かの会合を開きます。
- ③自由に、楽しく意見を交換出来るサロンとしての場は維持します。本の内容も、そのような意見を反映したものにしたいと考えています。
- ④上記とは別に、メンバーの積極的な世直し活動をおすすめします。政治活動のスポンサーや、シンクタンクとなり、行動されることを期待します。
- ⑤発信は大に行うべきだと思いますので、機会があればTV・雑誌等にも、個人ベース、あるいはグループで登場したいと希望しています。

## インターネットグループ

連絡 楠木孝雄 ksnoki@msm.com  
TEL.043-277-2009 FAX.043-277-2037

若手の会員を増やしたい。海外、遠隔地居住や、仕事の関係で、なかなか会合に出席できないメンバーにも参加できる場を提供したい。「会」の存在をもっと世間に知らせたい。会員一人一人や分科会が、世間に向けて発言できる場を用意したい。コミュニケーション手段としてのインターネットを会員間に広く普及させたい。いろいろな思惑を抱えながら、いまインターネット部会は、「米欧回覧の会」のホームページ作りに一生懸命です。

パソコンに向かって入力する人、ページの構成、材料探しに頭を痛める人、直接にはタッチしないが、よりよい内容にするため言いにくいこともビシビシ論評する人…関わり方は様々ですがこのホームページは部会員全員の合作です。3月中に閲覧開始予定のホームページにご期待下さい。

米欧回覧の会のホームページは、会員全員のもので、ホームページの内容や運営についてのご意見、ご希望、ご質問をお待ちしています。

『米欧回覧の会』ご案内

趣旨 この会は「岩倉使節団」に興味を持ち、その記録である、「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。

この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。

この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。

会員 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例会 年に4回くらい全体例会をもちます。

分科会 テーマ別にグループ活動をします・映像サロン・勉強会・旅行会・研究会・シンポジウムなど。

機関誌 年に4回程度機関誌を発行し、活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

幹事 会員の中から、代表1名、幹事十数名を選び、運営を担当します。

会費 年会費5,000円とし、主として通信費および機関誌代に充当します。例会・分科会・講演会などについては、その都度の会費とします。

事務局 当面は「イズミ・オフィス」に置きます。

〒192 八王子市元横山町1-14-16  
-0063 TEL0426-46-3310  
FAX0426-45-8700

入会申込

氏名・連絡先（自宅或いは勤め先の住所・TEL・FAX）現職&キャリアを事務局までFAXまたは郵便でお送りください。

なお、年会費は郵便振込が便利です。  
00180-2-580729

米欧回覧の会

〈催し案内〉

分科会のお申し込み・お問い合わせは各担当幹事へ

★第17回例会案内

日時：4月1日（土）13：00～17：00

エイプリルフールでも決して騙したりしません

場所：日本プレスセンターホール

内容 講演：西川長夫先生（立命館大学教授）

テーマ：「米欧回覧実記の現代性」

年次総会&1999年度会務報告

2000年度の事業計画について

インターネット「ホームページ・プレゼンテーション」

2001年プロジェクト報告

その後懇親パーティも予定しています。

詳しくはあらためてご案内します。

★分科会案内

●実記を読む会

3月9日（木）第1冊「例言」を読んで打ち上げ

来年度の方針について併せて討議します。

クラウンインターチェンジ

●歴史部会

4月24日（月）午後6：00～9：00

国際文化会館セミナールーム

テーマ：「福沢諭吉の文明論」

●現未来部会

4月19日（水）6：00～9：00 pm

6月15日（木）6：00～9：00 pm

いずれも国際文化会館セミナールーム

賛助金について

前号（17号）のNEWSでお願いした賛助金について、少なからざる方々からお振り込みをいただき、ころから御礼申し上げます。機関紙の編集インターネットHPの立ち上げなど費用がかさみますので引き続きご協力をお願いします。

また、このたびは2001プロジェクトに関して特別賛助金をお願いすることになりました。これは性質が異なるものなので、特別会計の扱いといたく存じます。少しまざらわしいのですが、どうぞご了承の上ご協力の程お願い申し上げます。事務局より

\*編集後記

最近の教育のお粗末ぶりは目に余るものがありますが、明治二十八年に既に漱石はこんなことを書いています。「昔の書生は、笈を負ひて四方に遊歴し、この人ならばと先生を敬うこと父兄に過ぎたり。先生もまた弟子に対しては出来ぬなり。今の書生は学校を旅屋の如く思う。金を出してしばらく逗留するに過ぎず、厭になれば直ぐ宿を移す。かかる生徒に対する校長は、宿屋の主人の如く、教師は番頭丁稚なり。主人たる校長すら時にはお客のご機嫌をとらねばならず、いわんや番頭丁稚をや。薰陶どころか解雇されざるをもって幸福と思う位なり。生徒の増長し教員の下落するは当たり前前のことなり。」  
明治維新をやりとげ近代日本を拓いた先人達は、漱石のいう「昔の書生」だったのでありましょう。ところが平成の今日では学校のみならず家庭までが旅屋になり、父母もまた宿屋の番頭丁稚に成り下がり、弟子の増長すること甚だしく天を仰ぐばかりです。ああ、この落差をなんとするか。